

< 地場産農産物の加工・販売を実施している事例 >

## 地域特産品の加工・販売を実施

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山梨県南巨摩郡身延町 <small>みなみこまぐんみのぶちょう</small> 宮木 <small>みやき</small>			
協定面積 9.7ha	田9.7ha (100%) 水稻、大豆	畑	草地	採草放牧地
交付金額 78万円	個人配分	0%		
	共同取組活動 (100%)	農道・水路等管理経費	77%	
		有害鳥獣防護柵設置経費	17%	
		一般事務経費(総会経費等)	6%	
協定参加者	農業者 48人、改田組合(構成員25人)・農振組合(構成員29人)			

### 2. 取組に至る経緯

- ・宮木集落は、以前から地域の特産品の生産や農地の保全に意欲的であった。しかし、既に組織化されていた「宮木農業振興組合」も高齢化等により労働力不足に悩まされていた。
- ・そこで、農作業機械の共同利用により生産コストの削減を図るとともに、地元の「曙大豆」を地域ブランドとして確立し、大豆を利用した豆腐・味噌など幅広い収入源の確保を目指すこととした。

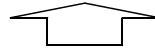
### 3. 取組の内容

- ・地域ブランドである「曙大豆」を利用し、豆腐や味噌に加工するとともに、新たに商品として「きな粉」の加工に取り組んでいる。
- ・次世代の子どもたちに、体験学習を通して農業に関心を深めてもらおうと地元小学校と連携し大豆生産活動を行っている。
- ・また、過疎化と高齢化により耕作放棄地の発生が懸念されていた中、機械の共同利用や農作業委託、高付加価値農作物を取り入れることにより、衰退しかけた集落の農地の再生をしている。



[ 集落の将来像 ]

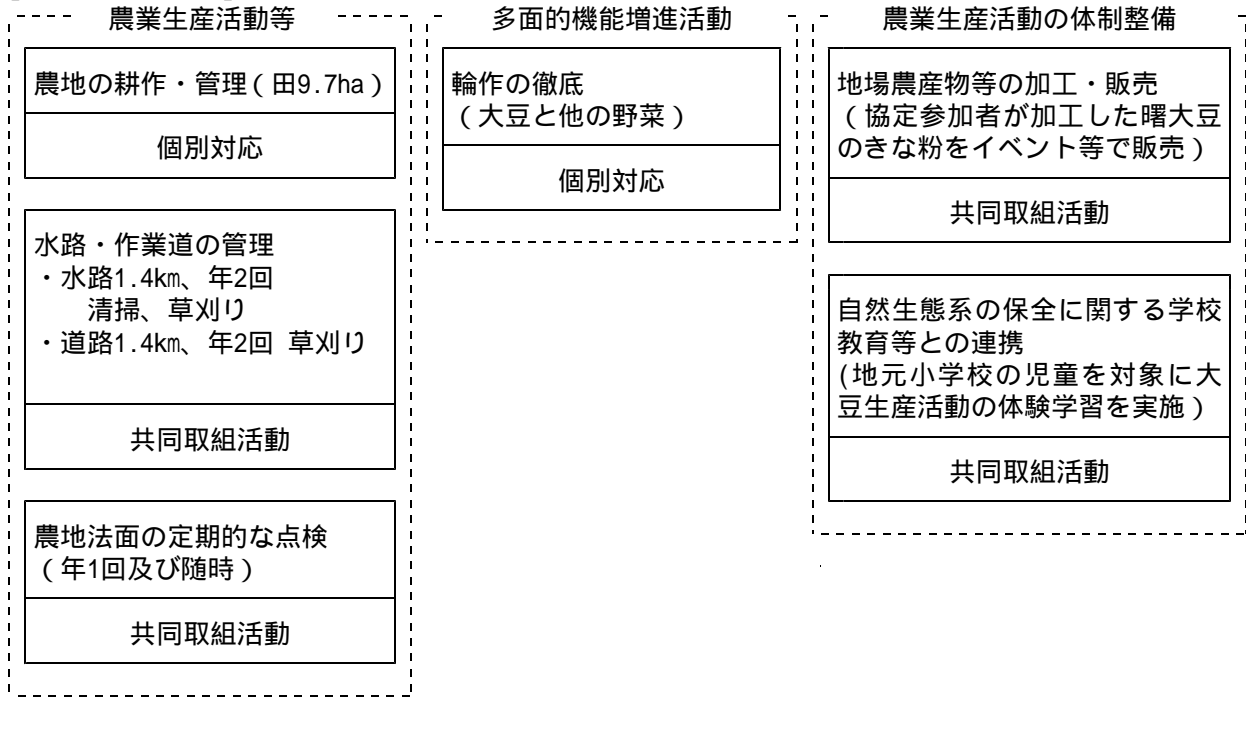
- \* 農業の省力化が進み、農機具や施設が充実し後継者が育成される。
- \* 曙大豆、雑穀酢等、町の特産物により農家経営に明るい見通しがつく。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

1. 耕作放棄地の耕作者の確保
2. 水路、農道等の補修及び管理
3. 生産、販売の独立した組織化 (曙大豆の増産)
4. 高付加価値型農業への取組 (雑穀酢等)

[ 活 動 内 容 ]



4. 取組による変化と今後の課題等

- ・ 今後は、集落が一丸となり、地域の特産品である「曙大豆」の安定生産や新商品の開発などを行い、地域ブランドとして商品価値をさらに高めていきたい。またその一方で、若者後継者や担い手の確保にも力を入れ、魅力ある農業を将来に残していきたい。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

- 地場産農産物等の加工・販売
  - ・ 地域ブランドである「曙大豆」を新たな商品として「きな粉」に加工しイベントで販売
- 自然生態系の保全に関する学校教育等との連携
  - ・ 地元小学校と協定を締結し、地域ブランドである「曙大豆」生産活動体験を実施